

チャレンジ農業

2026

特集

- I 旭農高日本酒プロジェクト
「北の灘」地域の未来をつなげ
- II 社会貢献型旭川農産物販路拡大事業について
- III 旭川市の基盤整備事業について
- IV 旭川市農業センターの取組について
- V 旭川市の鳥獣被害対策への取組について

旭川市営農改善推進協議会



ASAHIKAWA
CITY

発刊にあたって

旭川市営農改善推進協議会
会長 古澤祥弘

旭川市営農改善推進協議会は、地域農業の持続的な発展と安定した農業経営の確立を図るため、市内の農業関連団体が一致団結し、昭和47年7月に発足いたしました。

本協議会の主な取組といたしましては、農業関連機関・団体と連携の上で、経営・担い手育成、金融、水稻畑作、園芸、畜産、土づくり、土地改良、鳥獣対策、森づくりの9つの専門部会を設置し、各分野における課題解決に向けた事業を推進しているものです。

本書“チャレンジ農業”は、農業者の皆様に本協議会をより身近に感じていただいた上で事業を進めていくことが重要であるとの思いから、上川農業改良普及センターをはじめとする構成員各位の御協力のもと、毎年作成し配布しているものです。各専門部会での取組をお知らせするなど、より活用しやすい冊子となるよう作成しておりますので、本年の経営を考える上での一助として御活用いただきたいと思います。

本年も皆様方が御健勝で営農に従事され、実りの多い豊穰の秋を迎えられますことを御祈念申し上げ、発刊の言葉といたします。

目次

特集

I 旭農高日本酒プロジェクト「北の灘」地域の未来をつなげ	1
II 社会貢献型旭川産農産物販路拡大事業について-----	3
III 旭川市の基盤整備事業について -----	5
IV 旭川市農業センターの取組について -----	7
V 旭川市の鳥獣被害対策への取組について-----	10

農作物の生育状況

I 令和7年 水稻の生育経過と作柄の概要について -----	11
II 令和7年 畑作作柄の概要について -----	15
III 令和7年 園芸作物の概況について -----	17

営農技術トピック

I 高温対策について -----	19
------------------	----

参考資料

I 令和7年 旭川市における気象の経過 -----	22
II 統計資料 -----	24

I 旭農高日本酒プロジェクト「北の灘」地域の未来をつなげ

【北海道旭川農業高等学校農業科学科水稻専攻班】

私たちは「北方型稲作の更なる可能性の追求」というテーマで、「山田錦」や「五百万石」など本州産銘柄が人気の酒米業界で、道産米の可能性を追求し、「北の灘旭川」の地域内6次産業化という視点から地域振興及び産地形成の研究をしています。

1 「北の灘」酒蔵のまち旭川

今から135年前の明治24年(1891年)に永山村で旭川初の蔵元が誕生します。そこから30年後、大正10年(1921年)には蔵元の数も15社を数え道内最大の清酒醸造地として、「北の灘旭川」の名は各地へと広がりました。

しかし、昭和の時代に入り時代の混乱と本州産酒米の品質に徐々に押され、道内最大を誇った旭川の蔵元は、今や3社のみとなっています。

2 事前学習

私たちは授業や地域調査を通じて北海道の酒米は近年、吟風、彗星、きたしづくの3品種が相次いで優良品種と認定され、地酒としての地位を確立しつつあること。また、道内における道産酒米の使用率は上昇傾向にあり、令和4年には77.3%と高い数値となり全国新酒鑑評会でも受賞が続くなど、高い評価を受けていることを学びました。

しかし、令和6年農水省のデータから、道内で一番生産量の多い「吟風」1,516tと兵庫県産「山田錦」18,356tでは12倍以上の需要量の差があることも学びました。

また、うるち米と違い酒米は受注生産であり蔵元からの生産依頼で生産量が決まること、旭川地域は品質も高く、道内2番目の作付面積を誇るが、目標とする作付面積100haに対し、ここ10年での平均作付けは63haという現状であること、旭川の酒米は技術も品質も高いのに需要が伸び悩んでいること、全国シェアや産地形成、地域内6次産業化の視点からも地域産業を豊かにする可能性が十分に秘められていることを学び、地域経済効果の検証も含め5年目の研究に入りました。

3 商品イメージ

令和7年3月、賛同団体が一堂に集まるキックオフミーティングにて、新商品のデザインイメージを議題として提起しました。今年はシリーズの5周年を迎える年でもあるので、商品のプレミアム化の実践経験も視野に入れ、私たち一人ひとりが考えた商品名とブランド背景をプレゼンしました。

今回私たちが考えた候補は全32案。これらの商品イメージをもとに賛同企業の方々と意見を交換し、まとまった商品テーマは「想い逢い」。プロジェクトを応援してくださる皆様との“出逢い”を大切に、これからも“思い合い”の気持ちをもってプロジェクトに取り組み、長く愛されていますようにという願いを商品イメージにしました。このイメージからブランドの中核概念を具現化し、製品・行動・環境・コミュニケーションの4観点を軸に、360度いかに接点をよりよくしていくかを目指し、5年目の事業に挑戦しました。

4 今年は地域限定商品

令和8年は旭農高純米酒シリーズの5周年を記念して、生産する6,000本の純米酒のうち500本のみ生酒での商品化に挑戦します。

今回企画する生酒とは、火入れを行わないことで酵母や酵素をそのままお酒に残し、果実のようなフルーティな香りと軽い飲み口で、日本酒より白ワインに近い味わいが魅力です。

この商品は今までの道内外を視野に入れた広域商品ではなく、冷蔵保存が基本の地域限定商品です。地域限定商品は、その土地でしか生み出せない独自性を訴求し、消費者の購買意欲を高めるマーケティング戦略を狙います。

また、今年度実施した純米酒の首掛けリーフレットにQRコードを添付し、消費者の声を届けてもらうマーケティング調査では、商品が地域外にも広く届いているデータや国内や海外の方からの応援メッセージなど、北の灘旭川への期待や認知度、外部評価の高さを検証することができました。

5 旭川の魅力

旭川には道内屈指の稲作技術、大雪山脈の名水、伝統の酒蔵、これら地酒ができる3つの条件全てが地域に現存します。北の灘の復活は、都市と農村が理想的に融合するこの町を更に魅力的に発展させる力があります。

私たちはこれからも、北方型稲作の可能性を追求し、私たちの歩みを地域の未来にしっかりと繋げていきます。



旭農高純米酒 2022～2025 までの4商品



本校の酒米「きたしずく」生産圃場(生育調査)



農業科学科水稻専攻班のメンバー(前列3年生、後列2年生)



旭農高酒粕甘酒

II 社会貢献型旭川産農産物販路拡大事業について

【旭川市農政部農業振興課】

社会貢献を通じた旭川産農産物の販路拡大を目的として、ふるさと納税等の寄附を原資に旭川産米を購入し、全国の子ども食堂や困難を抱える子どもたちへ届ける「社会貢献型旭川産農産物販路拡大事業」を令和6年度より実施しています。

1 事業実施の背景

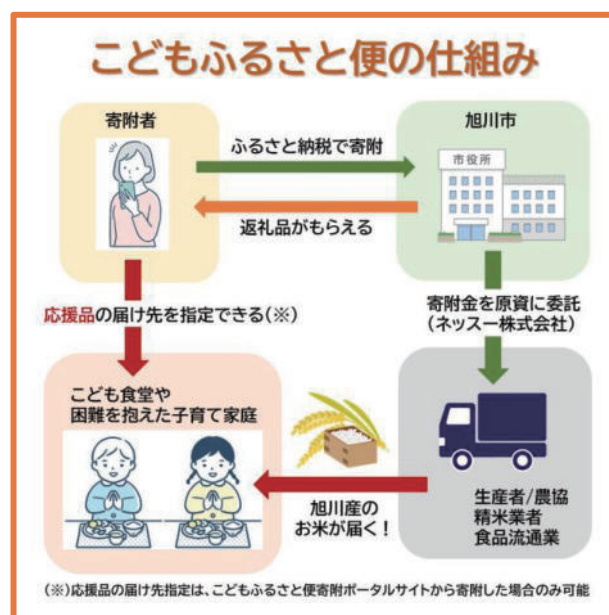
近年の物価高騰により、食に関する支援を必要とする世帯が増加している一方、米価格の高騰などもあり、子ども食堂等への食品支援は十分とはいえない状況にあります。このような状況を踏まえ、本事業では、子ども食堂や様々な困難を抱える子どもたちに対し、旭川産米を中心とした農産物を継続的に届けることで、安定した食支援に貢献することを目指しています。あわせて、北海道有数の米どころである旭川の強みを最大限に生かし、地域農産物の価値向上と販路拡大を図ります。

2 事業スキーム

ネスソー株式会社の「子どもふるさと便」事業に参画する形で事業を実施しています。

「子どもふるさと便」とは、ふるさと納税を通じて、地域の特産品や体験を応援品として、子ども食堂やひとり親家庭、難病と向き合う子どもたちの元に届ける仕組みです。

寄附者は通常のふるさと納税と同様に返礼品を受け取りながら、子ども支援に参加でき、応援品の届け先となる地域や団体を指定することができます。寄附を通じて、寄附金の使い道に対する寄附者の想いを、直接届けることができるのが特長です。(届け先指定は、ネスソー株式会社運営の「子どもふるさと便寄附ポータルサイト」から寄附した場合のみ可能。)



3 寄附獲得実績

ホクレン農業協同組合連合会様よりいただいた寄附100万円を原資にスタートした当事業は、事業のさらなる拡大と継続を目指し、令和6年度及び令和7年度にガバメントクラウドファンディングを実施しました。令和6年度においては、3か月間の寄附募集期間中に全国から2,900万円を超える寄附をいただき、これらの寄附金を原資として令和7年度事業を実施しました。令和7年度においては、寄附募集期間を9か月に延長した結果、5,500万円以上の寄附をいただくことができました。これほど多くの寄附が寄せられたことは、当事業の趣旨や意義について、多くの皆様から共感と継続的な支援をいただいていることを示しています。

4 お米のお届け（寄贈）実績

令和7年度は、47都道府県に合計約15t（トン）の旭川産米を寄贈しました。

寄贈先からは、「物価が高くなり、そんな中でのお米の提供に大喜びでした。本当に感謝しております。」「子どもたちに旭川産の美味しいお米を存分に食べさせたいと思います。心より感謝申し上げます。」といった感謝のお声がたくさん届いています。

表1 令和7年度お米寄贈量（地域別）

お米寄贈地域	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	合計
寄贈量(kg)	889	324	8,398	1,432	2,502	270	216	1,676	15,707



5 事業効果

(1) 食支援・社会課題への貢献

事業を通じて旭川産のお米を全国の子ども食堂やひとり親家庭などへ届けることで、多くの子どもたちやその家族の食を支える一助となっています。寄贈先からは、感謝の声が多く寄せられており、旭川産米が確かに食支援の現場で役立っていることがうかがえます。

(2) 旭川産米のPR・ブランディングの強化

これまで旭川のお米を口にできる機会の少なかった地域の方々にもその美味しさを知っていただくことができ、旭川産米のPRや販路拡大が期待できます。

(3) 生産者支援

寄附金を原資とする継続的なお米の寄贈は、市外からの資金流入と米価に左右されない安定的な販売先の確保という好循環を生み出し、農業経営の改善、ひいては地域の活性化に寄与します。

6 ふるさと納税自治体連合表彰受賞

「ふるさと納税の健全な発展を目指す自治体連合」主催のふるさと納税自治体連合表彰において、当事業が「優良事例」として表彰されました。表彰式は、令和7年11月17日開催の「第9回ふるさと納税の未来を考えるシンポジウム」にて行われました。本受賞は、当事業の取組に多くの方が共感し、日頃より事業を支えてくださる方々の支援によって実現したものです。引き続き事業を通じた社会貢献に取り組んでいきます。



表彰状

III 旭川市の基盤整備事業について

【旭川市農政部農林整備課】

1 基盤整備事業について

食料の安定供給、農業生産性の向上、需要の動向に即した農業生産の再編等に資するため、ダム、頭首工、用排水路等の農業用排水施設の整備や区画整理による農地の集積、大区画化といった、農地の再編整備を行います。

2 旭川市内の土地改良事業実施地区について

(1) 国営緊急農地再編整備事業「旭東地区」

実施地域：旭川市(西神楽)、東神楽町 事業期間：令和元年度～令和15年度
受益面積：1,963ha(うち旭川市1,559ha)

(2) 国営かんがい排水事業「共栄近文二期地区」

実施地域：旭川市(東鷹栖)、鷹栖町 事業期間：令和3年度～令和12年度
受益面積：5,582ha(うち旭川市2,039ha)

(3) 国営かんがい排水事業「神竜二期地区」

実施地域：旭川市(神居古潭)、深川市、秩父別町 事業期間：令和4年度～令和15年度
受益面積：2,934ha(うち旭川市67.8ha)

(4) 国営かんがい排水事業「美瑛川下流地区」

実施地域：旭川市(神居町、西神楽南) 事業期間(予定)：令和8年度～令和17年度
受益面積：771ha

(5) 道営土地改良事業「旭正北中央地区」

実施地域：旭川市(東旭川町) 事業期間：平成30年度～令和8年度
受益面積：113ha

(6) 道営土地改良事業「永山西第1地区」

実施地域：旭川市(永山町) 事業期間：令和2年度～令和9年度
受益面積：44.8ha

(7) 道営土地改良事業「旭正南第1」

実施地域：旭川市(東旭川町) 事業期間：令和4年度～令和12年度
受益面積：106.8ha

(8) 道営土地改良事業「永山西第2地区」

実施地域：旭川市(永山町) 事業期間：令和6年度～令和14年度
受益面積：58ha

(9) 道営土地改良事業「永山西第3地区」

実施地域：旭川市(永山町) 事業期間：令和7年度～令和15年度
受益面積：35.8ha

(10) 道営土地改良事業「旭正北第2地区」

実施地域：旭川市(東旭川町) 事業期間：令和7年度～令和15年度
受益面積：93.4ha

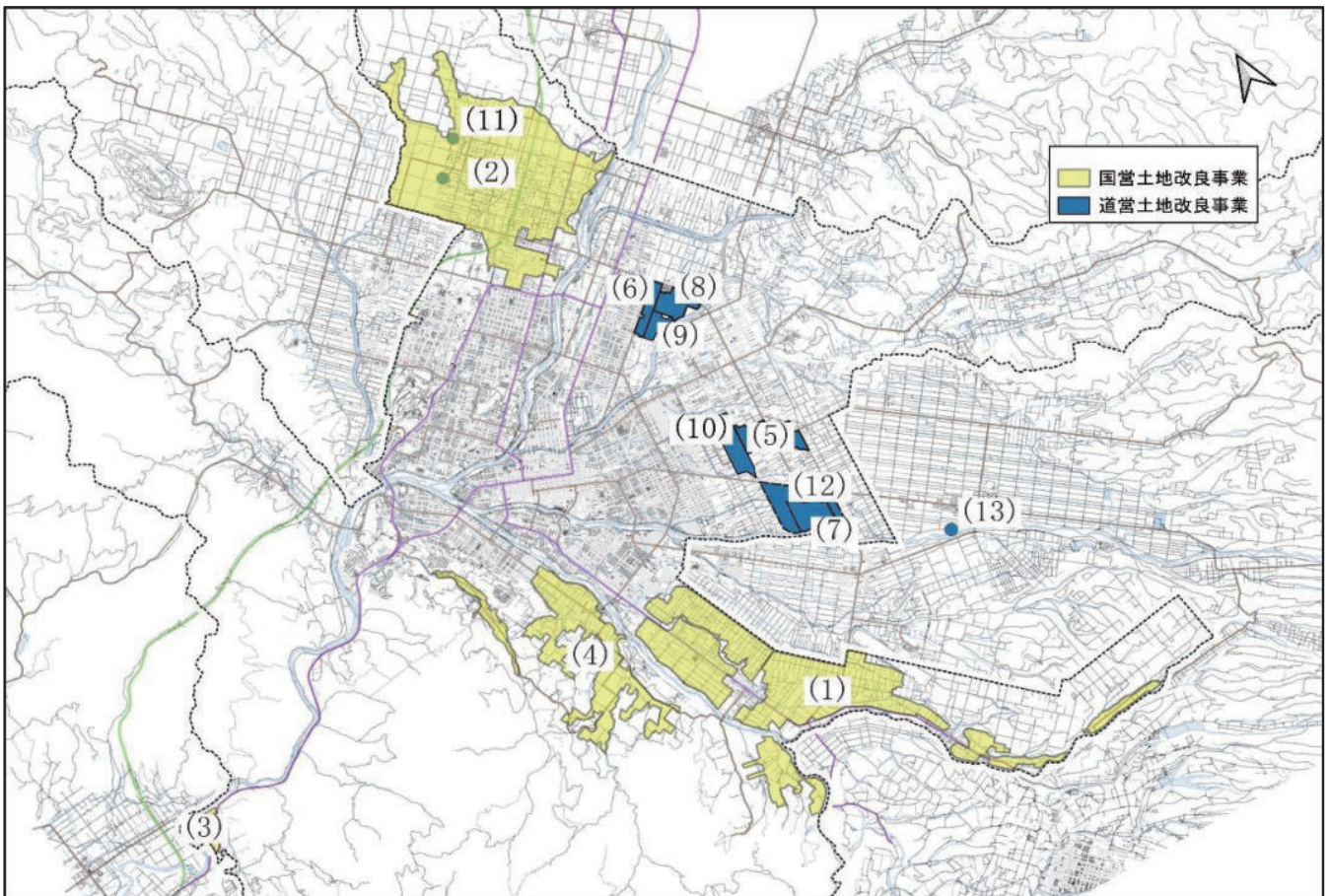
- (11) 道営土地改良事業「堰上溝路」
実施地域：旭川市(東鷹栖)、鷹栖町 事業期間：令和7年度～令和11年度
受益面積：309.2ha(うち旭川市66ha)
- (12) 道営土地改良事業「旭正南第2地区」
実施地域：旭川市(東旭川町) 事業期間：令和8年度～令和17年度
受益面積：221.2ha
- (13) 道営土地改良事業「忠別第3地区」
実施地域：旭川市(東旭川町)、東川町 事業期間：令和8年度～令和13年度
受益面積：2,064.3ha(うち旭川市2,036ha)



大区画化工事前



工事後



旭川市基盤整備事業実施地区図

IV 旭川市農業センターの取組について

【旭川市農業センター】



農業センターでは、旭川青果物生産出荷協議会（各品目部会）、JA、企業等の要望に基づく園芸作物等の試験研究、新規就農希望者や新規園芸参入者を対象とした研修、健全な土づくりを推進するための土壌分析診断や相談対応等、本市農業を支援するための様々な事業に取り組んでいます。

1 新規就農者・園芸参入者支援について

(1) 新規就農者支援

農業センターは、北海道認定の研修教育機関として、市内に就農を希望する就農前研修生を受け入れ、以下の研修を行っています。

研修期間は原則2年間で、令和7年度は4名の方（研修2年目：2名、1年目：2名）が研修に参加されました。

<p>実践研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農業センター作成のカリキュラムに基づき、市内指導農家のもとで営農体系全般を学びます（年間175日程度）。 ・指導農家での研修と並行して、農業センターの実習ほ場において栽培技術を学びます（年間30回程度）。 ※令和7年度は、花きで就農を目指す研修生に、花き5品目の栽培技術研修を行いました。 	 <p>農業センター実習ほ場の様子</p>
<p>専門研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術、土づくり、病害虫、農業機械、経営管理、ハウス施工等について学びます（農業センターにおいて年間8回程度開催）。 	 <p>専門研修(ハウス施工)</p>

(2) 園芸参入者支援

就農直後の方や新たに園芸品目栽培を始める方を対象に、専門研修（令和7年度：1名参加）、就農後の現地訪問指導（同：19名、延べ39回）を行っています。

指導の例

- ①果菜栽培後に新規導入する晩秋ホウレンソウの土づくりと栽培法について
- ②花き類の生育不良の原因特定と対策となる灌水方法について

(3) 近隣町と連携した研修

旭川大雪圏域連携中枢都市圏ビジョンの取組により、近隣8町からの希望者も研修に参加できます。令和7年度は、鷹栖町、東川町、当麻町から7名の方が参加されました。

2 令和7年度に実施した主な試験研究や技術普及事業 ※（ ）は要望元

(1) 夏秋ナスの養液栽培試験（市内農協）

令和5年度から実施している試験では、市内に適した品種や栽培方法、台木の有効性について検証しています。令和7年度は、多収を目的とした台木の品種比較と、肥料コスト削減を目的とした給液濃度試験を行いました。

また、自作不要なクラウド型の複合環境制御装置を用いてクラウド上でハウス環境のモニタリングと操作を行い、当該装置の当地での適性について検討しました。



ナスの養液栽培圃場

(2) サツマイモ苗自家増殖技術普及推進事業（市内農協）

市内のサツマイモ栽培では、作付の拡大に伴い苗の確保が課題となっており、農業センターでも令和4年度より苗増殖に関する栽培試験を行っています。

令和7年度は、地域の生産者等に苗の自家増殖技術をより具体的に知っていただくため、市内農協との協働により、実技を伴う実践的な研修会を開催しました。

計3回（4月：親苗定植、5月：二次増殖、6月：採苗）実施した研修会では、市内生産者、農協職員等、延べ75名が参加し、温度管理や二次増殖の方法、採苗時のコツ、苗の取り扱い、増殖率などを学びました。



研修会の様子

(3) シャインマスカットの栽培試験（市内農協）

令和2年度に市内農協による、「シャインマスカット」プロジェクトチームが発足され、令和3年度から農業センターで栽培試験を行っています。

令和7年度はこれまでの試験で課題とされた越冬方法について引き続き検討するとともに、収量性や果実特性について調査した結果、旭川市でも、色や重量、糖度などの品質が市場流通品と同等の果実を収穫できることを確認しました。なお、農業センターで収穫した果実は、市民向け講習会での試食PR用として活用し、また、JAあさひかわ直売所「あさがお神楽店」での販売も行いました。



収穫前のシャインマスカット

(4) その他の試験

「夏秋トマトの品種比較試験」「サヤインゲンの品種比較試験」「低温期におけるリーフレタスの品種比較試験」「高温期におけるチンゲンサイの品種比較試験」「サツマイモ苗の増殖実証試験」「下水汚泥焼却灰由来肥料の効果検証試験」「ブロッコリーの直播栽培試験」を含めた計9課題の試験研究を実施しました。

3 土づくり対策支援事業

農業センターでは、市内JAや上川農業改良普及センターと協力しながら、様々な土づくり支援に取り組んでおり、土づくりにお悩みの生産者からの相談にも対応しています。

相談内容は「ほ場の排水性が悪い」「作物の生育不良」「新規作物導入前に土の性質を確認したい」「ハウス新設前に土の性質を確認したい」など様々ですが、ほ場巡回時にその場で行う「簡易土壌診断」による迅速な調査・指導や、土の性質や問題点を詳しく把握できる「土壌断面調査」など、相談者の状況に応じた方法により、改善に向けた支援に取り組んでいます。



測定キットによる簡易土壌診断
(pH、EC、硝酸態窒素など)



生育不良ほ場における原因究明に向けた
土壌断面調査

【過去の相談事例】

ミニトマト栽培ハウスにおいて、一部の場所だけ生育不良が発生し苦慮しているとの相談がありました。

土壌断面調査を行った結果、同じハウス内でも生育不良地点（左図）だけに次の特徴が見られました。

- ・他の場所と比べて作土層が浅い
- ・深さ80cm地点に水が浸み出す湧水層がある

→著しく排水性が悪いことが生育不良の一因と特定

その後、不良地点を中心に暗渠を施工した結果、生育が良好に改善されました。



生育不良地点の土壌断面

皆様のほ場でも、土づくり等に関するお困りごとや御不明な点がありましたら、お気軽に御相談ください。

詳しくは農業センター技術支援担当（61-0211）までお問合せください。

III 旭川市の鳥獣被害対策への取組について

【鳥獣対策専門部会】

1 農業被害の軽減について

平成26年度より北海道猟友会旭川支部の協力のもと、「旭川市鳥獣被害対策実施隊」を設置し、鳥獣被害対策に取り組んでいますが、市内の広い農地の被害を実施隊の力だけで全て防ぐことはできません。

実施隊員による駆除活動だけではなく、農業被害を軽減するためには、個々の農業者の方の自己防衛への意識、行動が不可欠ですので、特に次の点について御協力をお願いします。

＜農業被害防止のための自己防衛手段＞

<p>01</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜など農作物の残さを放置しない。 堆肥を長期間野積みしない。 	→	<ul style="list-style-type: none"> 残さや堆肥に野生動物が寄りつき、繰り返し農地にやってくる原因になります。
<p>02</p> <ul style="list-style-type: none"> ほ場内でキツネやシカを見かけたときは、大きな音などで威嚇し、追い払う。 	→	<ul style="list-style-type: none"> 野生動物に人への警戒心を与え、農地に居着くことを防ぎます。
<p>03</p> <ul style="list-style-type: none"> 被害にあいやすい作物の周りにネットや柵、テグスを張る。 	→	<ul style="list-style-type: none"> 侵入しづらい状態にすることで、野生動物が寄りつきづらくなります。
<p>04</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴミステーション等のゴミ出しルールを守り、鳥獣が手を出せないようにネットやフタをしっかりと設置する。 	→	<ul style="list-style-type: none"> ゴミが食べられることを学習した個体が地域に繰り返し出没することを防ぎます。
<p>05</p> <ul style="list-style-type: none"> 納屋の床下の隙間をブロック等でふさぐ。 空き家を放置しない。 	→	<ul style="list-style-type: none"> キツネやアライグマは、納屋の床下などから侵入し、住みついてしまう場合があります。結果、繰り返し被害が出てしまうだけでなく、繁殖して数が増えることにもつながります。

自衛を行っても被害が減らない場合は、旭川市農業振興課（0166-25-7470）に御相談ください。現地確認の上、自衛策のアドバイスや実施隊の出動要請を行います。

2 ヒグマ対策について

令和7年度はヒグマの出没が多くありました。

要因は多岐にわたりますが、ヒグマが食べることでできる農作物を侵入防止策をせず栽培したり、未収穫作物の放置も一因となってしまいます。

ヒグマの目撃のほか、ヒグマによるものと考えられる農作物被害があった場合は、旭川市環境部までご一報ください。

平日日中 環境部環境総務課 TEL 0166-25-5350

平日夜間・休日 旭川市役所 当直 TEL 0166-26-1111



農業被害現場で発見された糞



ヒグマ注意チラシ

I 令和7年 水稲の生育経過と作柄の概要について

【上川農業改良普及センター】

1 生育の経過

(1) 融雪期～春耕起時期

融雪期は、4月7日で平年よりも1日早くなりました。

融雪後は断続的な降雨が見られたため、耕起始は平年より1日早い4月22日であったのに対し、耕起盛期は平年より1日遅い4月30日となりました（表1）。

表1 令和7年度水稲生育期節および作業期

（上川農業改良普及センター生育調査ほ 成苗ポット「ななつぼし」）

生育期節				農作業進捗状況				
項目	本年	平年	遅速	項目	本年	平年	遅速	
出芽期	4/26	4/25	遅1	は種	始	4/15	4/16	早1
活着期	5/28	5/27	遅1		期	4/19	4/19	±0
分けつ始	6/1	6/1	±0		終	4/26	4/25	遅1
幼穂形成期	6/23	6/25	早2	耕起始	4/22	4/23	早1	
止葉期	7/6	7/10	早4	耕起盛期	4/30	4/29	遅1	
出穂始	7/13	7/18	早5	移植	始	5/17	5/17	±0
出穂期	7/17	7/23	早6		期	5/21	5/22	早1
出穂揃	7/21	7/28	早7		終	5/28	5/28	±0
成熟期	8/31	9/9	早9	収穫	始	9/5	9/13	早8
					期	9/15	9/22	早7
					終	9/27	10/2	早5

(2) は種～移植期

は種作業は、は種始が4月15日で平年よりも1日早く、は種期が4月19日で平年並となりました。令和7年は、は種後に日照不足傾向となったため、出芽にやや時間を要し、出芽期は平年よりも1日遅い4月26日となりました（表1）。

出芽後は気温が上昇し高温に経過したため、苗の生育は平年並に回復しました。移植時の苗質は、草丈が15.5cm、葉数は4.5葉で、平年よりもやや生育の進んだ苗となりました（表2）。

移植期は5月21日で平年よりも1日早く、移植作業は比較的順調に進みました。

表2 移植時の苗質(R7 普及センター調査ほ ななつぼし(成苗ポット))

	草丈 (cm)	第一鞘高 (cm)	葉数 (枚)	茎数 (本)	乾物重 (g/100本)
R7年	15.5	2.1	4.5	1.9	5.00
平年	14.8	2.4	4.3	1.8	4.70
平年差	0.7	-0.3	0.2	0.1	0.30

(3) 移植後の茎数の推移

移植後はやや低温の時期があったため活着までに時間を要しましたが、その後は気温が上昇し、6月15日現在で茎数は平年並となりました。6月4半旬以降は高温・多照傾向が続き、7月1日現在の茎数は平年を大きく上回りましたが、その後は茎数の淘汰が早く進み、最終的なm²当たり穂数は、619本（平年比99%）で平年並となりました（図1）。

(4) 幼穂形成期～出穂期

幼穂形成期は平年より2日早い6月23日となりました。

出穂期は平年より6日早い7月17日となりました。出穂期間（出穂始～出穂揃）は8日間と平年より2日短い日数となりました。

(5) 登熟期間～収穫

8月の積算平均気温は平年比110%と高めに経過しました。また、8月4半旬以降は降雨が多く、登熟後半はほ場の土壌水分が維持されました。そのため、登熟は順調に進み成熟期は平年より9日早い8月31日となりました。

収穫始は平年より8日早い9月5日となりましたが、9月の降水量は平年比138%と多く、頻繁な降雨により収穫作業には遅れが見られました。倒伏による影響も重なり、収穫終は平年よりも5日早い9月27日となり、収穫期間は平年よりも3日長くなりました（表1）。

(6) 収量構成要素・決定要素（表3）

普及センター生育調査ほにおける「ななつぼし」の収量構成・決定要素を平年と比較すると㎡当たり穂数、1穂粒数、稔実歩合は平年並で、総粒数及び稔実粒数も平年並となりました。登熟歩合は78.6%と平年よりやや低かったですが、千粒重は平年よりも4%重く、精玄米重は668kg/10aで平年比100%でした。

「ゆめぴりか」については、㎡当たり穂数が平年比92%と少なく、1穂粒数も平年比95%と少なかったため、総粒数及び稔実粒数は平年比89%と少なくなりました。登熟歩合は平年並で、千粒重が平年よりも5%重かったものの、精玄米重は579kg/10aで平年比91%と少なくなりました。

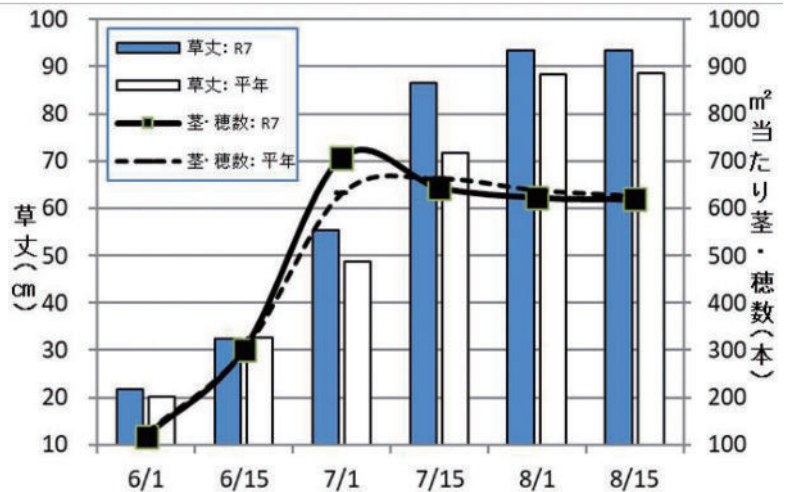


図1 草丈・㎡あたり茎数の推移
(普及センター生育調査ほ 成苗ポットななつぼし)
※茎・穂数(本/㎡)は8/15のみ穂数を示す

表3 品種別の収量構成要素・決定要素

品種	年次	穂数 (本/㎡)	一穂粒数 (本/穂)	総粒数 (粒/㎡)	稔実歩合 (%)	稔実粒数 (粒/㎡)	精玄米重 1.9mm上 (kg/10a)	屑米重 (kg/10a)	千粒重 (g)	等級	登熟 歩合 (%)
ななつぼし	本年	619	58.5	36,212	95.4	34,546	668	22	23.6	1	78.6
	平年	627	58.7	36,685	95.3	34,961	669	25	22.6	1	81.6
	平年比	99%	100%	99%	0.1	99%	100%	88%	104%	-	-3.0
ゆめぴりか	本年	651	47.5	31,248	93.8	29,311	579	57	24.2	1	78.0
	平年	709	50.0	35,246	93.8	33,061	637	33	23.0	1	78.4
	平年比	92%	95%	89%	0.0	89%	91%	173%	105%	-	-0.4

*千粒重の篩目は、1.9mm

(7) 蛋白質含有率

普及センター生育調査ほにおける「ななつぼし」の蛋白質含有率は、平均 7.3%とやや高くなりました（表 4）。

表 4 普及センター調査ほ 成苗「ななつぼし」蛋白質含有率（機械測定による参考値）

地点	A	B	C	D	E	F	G	平均
蛋白質含有率 (%)	7.1	7.3	7.3	7.0	7.5	7.0	8.0	7.3

2 令和 7 年産の収量・品質の考察

(1) 収量

普及センター生育調査ほにおける「ななつぼし」の収量は平年比 100%でしたが、「ゆめぴりか」では平年比 91%にとどまりました。地域や品種によって、収量構成要素が確保できなかったことで最終的な収量は平年よりもやや少なくなったと考えられます。

穂数について、6月中旬以降の高温の影響により生育が大幅に前倒しになり、栄養生長期が短くなったことが、有効分げつを十分に確保できなかった主な要因だと思われます。1穂粒数については、急激な節間伸長や同化産物の消耗と密接な関係があると考えられ、伸長中の幼穂の栄養状態が悪化し、1穂粒数の増加が阻害されたものと推察されます。

(2) 外観品質

今年度も登熟期間は高温に経過し品質の低下が懸念されましたが、白未熟粒や胴割粒の発生は少なく外観品質は良好でした。登熟期間がそれほど極端な高温とならなかったことや、8月中旬以降に降雨が多くほ場の土壌水分が保たれたことに加え、適期刈取の励行や丁寧な収穫・乾燥・調製作業の実施により、良好な品質が確保されたと思われます。

(3) 蛋白質含有率

蛋白質含有率がやや高かったのは、登熟期間中の高温が影響していると考えられます。人工気象箱を用いた実験では（昼・夜）の気温が高いほど蛋白質含有率は全体的に高くなり、粒厚が薄いほどその影響が大きくなることが確認されています（図 2）。

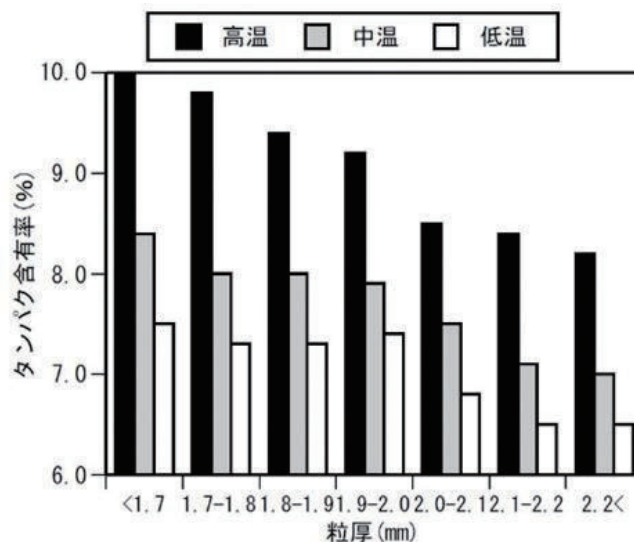


図 2 登熟温度と粒厚が蛋白質含有率に及ぼす影響（きらら 397）
高温：昼-夜（29℃-25℃），中温：（25-21℃），低温：（21-17℃）

3 病害虫の発生状況

病害虫では「紋枯病」、「アカビゲホソミドリカスミカメ」、「ヒメトビウンカ」の発生量が平年よりも「やや多」となりました。「紋枯病」は高温性の病害であり近年の高温傾向から発生が増加しています。防除を実施していないほ場が多く、発生ほ場では伝染源の密度が高まっていることが考えられ、発生程度に応じて防除が必要です。「アカビゲホソミドリカスミカメ」の吸汁による斑点米の発生は平年よりも多く見られましたが、予察や基幹防除の実施により被害は最小限に抑えることができました。「ヒメトビウンカ」による縞葉枯病の発生や、葉のすす症状が局所的に見られました。今後も予察と適正防除の実施が重要となります（表5）。

表5 水稻病害虫の発生状況(R7)

病害虫名	初発次期	発生量	面積割合 (%)		備考
			発生	被害	
いもち病（葉）	—	並	なし	なし	局所的に発生確認
いもち病（穂）	—	並	なし	なし	局所的に発生確認
紋枯病	7月5半旬	やや多	21.0	0.1	
縞葉枯病	6月1半旬	並	7.5	なし	
ばか苗病	—	並	なし	なし	局所的に発生確認
イネドロオイムシ	—	並	なし	なし	局所的に発生確認
アカビゲホソミドリカスミカメ	6月5半旬	やや多	18.1	なし	
ヒメトビウンカ	6月2半旬	やや多	26.3	なし	
フタオビコヤガ	6月6半旬	並	0.6	なし	

注：調査地点は旭川市・鷹栖町・当麻町・比布町・愛別町

4 次年度に向けて

(1) ほ場の乾田化

作期中の溝切り・中干し、収穫後の溝切り・心土破碎による停滞水の排除、融雪材の散布により、ほ場の乾燥を促進しましょう。

(2) ケイ酸散布の実施

ケイ酸散布には、①病害虫抵抗性の向上、②登熟歩合の向上、③稲体の物理的強度の向上による倒伏の軽減等、様々な効果があります。土壌診断値に基づいた施用を実施しましょう。

(3) 健苗育成

草丈は初期生育促進のため中苗マットで10～12cm、成苗ポットで10～13cmを目標にします。成苗ポットでは3.6葉から移植を始め4.2葉程度までに移植を終えられるように作業計画を立てましょう。中苗マットでは極端な厚播きを避け、移植時葉齢は3.1葉以上にします（育苗日数の短い高密度は種栽培の場合を除く）。

(4) 分けつ期の水管理

浅水管理により水温上昇を図り、分けつを促進させましょう（低温・強風時以外）。まとまった降雨の後に深水状態が数日続くことが多いため、速やかに適切な水深に調節しましょう。

(5) 冷害危険期の水管理

前歴期間および冷害危険期には幼穂長に合わせた深水管理を実施しましょう。深水管理は幼穂を低温から守るだけでなく、遅発分けつを抑制し、穂揃いを良好にする役割もあります。

II 令和7年 畑作作柄の概要について

【上川農業改良普及センター】

1 秋まき小麦「きたほなみ」

(1) 生育経過（表1、表2）

- ① は種期は9月13日（±0）、出芽期は9月20日（早1）と平年並でした。越冬前茎数は1,168本/m²（平年比94%）となりました。
- ② 起生期は4月4日（±0）と平年並でしたが、起生期以降の4月下旬が高温で推移したことから、幼穂形成期は5月1日（早1）となりました。
- ③ その後も総じて高温で推移し、止葉期は5月20日（早2）でしたが、5月下旬より気温は平年並に推移し、出穂期は5月31日（±0）となりました。
- ④ 7月は極めて高温で降雨も少なく、成熟期は7月7日（早4）となりました。
- ⑤ 病害虫の発生状況は、一部で赤さび病の発生は見られましたが、赤かび病の発生は少なかったです。

表1 生育経過

調査基準日		10/1	10/15	越冬前	起生期	5/15	6/1	6/15		7/1	7/15
草丈 (cm)	7年産	14.0	21.5	—	—	35.4	68.4	79.8	稈長 (cm)	78.5	78.5
	平年	8.2	16.3	—	—	35.1	71.5	84.1		81.4	81.2
葉数 (葉)	7年産	2.2	4.3	—	—	—	—	—	穂長 (cm)	8.6	8.6
	平年	1.7	4.2	—	—	—	—	—		9.1	9.1
m ² 茎数 (本)	7年産	200	498	1,168	1,346	1,116	731	616	m ² 穂数 (本)	601	601
	平年	218	528	1,347	1,060	1,331	937	743		691	691

表2 生育・作業期節

生育期節	7年産	平年	差	作業期節	7年産	平年	差	
出芽期	9/20	9/21	+1	は種	始	9/6	9/5	△1
起生期	4/4	4/4	±0		期	9/13	9/13	±0
幼穂形成期	5/1	5/2	+1		終	9/23	9/23	±0
止葉期	5/20	5/22	+2	収穫	始	7/15	7/19	+4
出穂期	5/31	5/31	±0		期	7/20	7/23	+3
成熟期	7/7	7/11	+4		終	7/24	7/29	+5

(2) 収量・品質（表3）

穂数は601本/m²（平年比89%）と少なかったですが、一穂粒数が27.1粒（平年比136%）と多くなりました。千粒重は36.6g（平年比96%）と平年並でしたが、子実重は561kg/10a（平年比114%）となりました。タンパク値は10.5%でした。

表3 収量・品質

項目	m ² 穂数 (本)	一穂粒数 (粒)	子実重 (kg/10a)	千粒重 (g)	タンパク (%)	等級
7年産	601	27.1	561	36.6	10.5	1.4
平年	677	19.9	493	38.3	11.3	1.1
平年比(%)	89	136	114	96	—	—

2 大豆「とよまどか・ユキホマレR」

(1) 生育経過（表4、表5）

- ① 5月下旬の降雨により、は種期は6月2日（遅6）と遅れ、出芽期も6月10日（遅6）となりました。
- ② は種の遅れのため、6月15日の生育は遅れ草丈で3.4cm（平年対比58%）でした。その後、高温のため草丈は最終的に同等（9月15日で99%）となりました。開花期（7月中旬）が高温であったため受粉が良く、莢数は728莢/m²（平年対比113%）と多くなりました。
- ③ 出芽後は気温と日照は良くありませんでしたが、7月からかなりの高温で、開花期は7月11日（早3）となりました。その後も高温が続き、成熟期は9月16日（早1）となりました。

表4 生育経過

調査基準日		6/15	7/1	7/15	8/1	8/15	9/1	9/15
草丈 (cm)	7年	3.4	24.1	54.5	66.1	66.1	69.1	69.1
	平年	5.9	21.7	49.1	66.9	69.5	69.7	69.7
葉数 (葉)	7年	0.1	3.5	7.3	8.6	8.9	8.9	8.9
	平年	0.2	3.1	6.7	9.0	9.4	9.4	9.4
着莢数 (莢/m ²)	7年	—	—	—	—	842	831	728
	平年	—	—	—	—	589	648	644

表5 生育・作業期節

生育期節	7年	平年	差	作業期節	7年	平年	差	
出芽始	6/8	6/2	△6	は種	始	5/25	5/20	△5
出芽期	6/10	6/4	△6		期	6/2	5/27	△6
開花始	7/9	7/12	+3		終	6/9	6/5	△4
開花期	7/11	7/14	+3	収穫	始	10/5	10/6	+1
成熟期	9/16	9/17	+1		期	10/12	10/15	+3
					終	10/22	10/25	+3

(2) 収量・品質（表6）

収量は、着莢数は728莢/m²（平年比113%）、一莢内粒数は1.9粒（平年比128%）と多くなりました。百粒重が34.6g（平年比107%）と重かったため、子実重は419kg/10a（平年比142%）となりました。等級は、2.6等でした。

表6 収量・品質

項目	着莢数 (莢/m ²)	一莢内粒数 (粒)	子実重 (kg/10a)	百粒重 (g)	等級
7年産	728	1.9	419	34.6	2.6
平年	644	1.5	295	32.4	2.1
平年比(%)	113	128	142	107	—

III 令和7年 園芸作物の概況について

【上川農業改良普及センター】

1 野菜の主要品目の概況

品目	作型	作業・出荷・生育の経過
きゅうり	半促成	<ul style="list-style-type: none"> ・定植後は曇天寡照傾向により生育および開花が遅れていたが、5月下旬から6月中旬にかけて生育の遅れは回復した。6月下旬以降の生育は概ね順調であった。 ・病害虫はマイマイガの幼虫やべと病の発生が目立った。 ・出荷量は、出荷始から8月にかけて平年より少なめに推移したものの、9月以降は平年並からやや上回る水準となった。単価は年間を通じて高値で推移した。
ほうれんそう	晩春～秋まき (雨よけ)	<ul style="list-style-type: none"> ・3月～5月1半旬までは日照不足により、生育及び収穫作業は遅れた。その後生育は一時的に回復したものの、6月4半旬～8月末までは高温により出芽不良・生育の遅れがみられた。出荷量は戸数の減少や、6月4半旬～7月末までの種作業の見合わせにより大幅に減少した。 ・病害虫は主にハウレンソウケナガコナダニと、高温期の萎凋病の発生がみられた。
いちご	無加温半促成	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年8月5～6半旬にかけて定植された。活着はやや緩慢であったものの、定植後の生育は概ね順調に推移した。融雪後の生育遅れにより開花は昨年より5日遅れたが、その後の生育は順調で、出荷始は令和6年より1日早く、出荷終は3日早かった。 ・病害虫は、収穫期にアザミウマ類や灰色かび病の発生がみられた。 ・出荷期間を通して小玉傾向だった。
ピーマン	無加温半促成	<ul style="list-style-type: none"> ・定植後は日照時間が平年より少なく、生育が遅れたが、6月以降日照時間が確保され、高温傾向となり生育の遅れは回復した。7月頃からは高温に伴い落花、尻腐れ果、日焼け果の発生がみられた。 ・病害虫は鱗翅目幼虫、ハダニ類の発生がみられた。出荷量は令和6年対比で10%程度減少した。単価は令和6年対比で10%高く、年間を通して安定していた。

品目	作型	作業・出荷・生育の経過
おうとう	露地 (雨よけ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月は気温が確保されたが、発芽期は4月 11 日と平年並だった。その後、開花時期の気温が平年より高く、5月全体の日照時間は平年より多かった。しかし、風が強い日が多く訪花昆虫の活動が心配されたが、結実量は平年並であった。その後、気温は高く推移したが果実の成熟は平年並に進み、収穫始は平年並となった。7月の気温が平年より高く推移したため、熟度が早まり、収穫終は平年より2日早い7月 25 日に終了した。 ・ 品質は1果重は平年比 112%と大きく、Brix 値による糖度は平年比 96%とほぼ平年並だった。
りんご	露地	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月の気温は平年より高く推移したが、発芽期は4月 21 日、展葉期は5月 3 日で平年並となった。5月 1～5 半旬の気温が平年を上回ったため、開花始、満開期、落花期は平年と比べ1日早かった。開花時期に気温が平年を下回る日があり訪花昆虫の活動が一時緩慢となったが、着果量は平年並に確保された。 ・ 果実肥大は8月 4 半旬以降の降雨によって肥大し、収穫直前での果実体積は平年比 104%であった。 ・ 9月 2 半旬頃から最低気温が平年並、最高気温が平年より高く推移したため、糖度や着色は平年並だった。収穫始は9月 23 日で平年より1日早く始まり、収穫終は平年並の 11 月 3 日で終了した。 ・ 果実品質は糖度と着色は平年並、酸度（リンゴ酸含有量）は平年より高く、硬度は平年より高く硬かった。 ・ 8月～9月の高温の影響で日焼け果の発生が若干みられた。鳥害は少なかった。 ・ 収量は平年比 103%と平年並だった。

I 高温対策について

【上川農業改良普及センター】

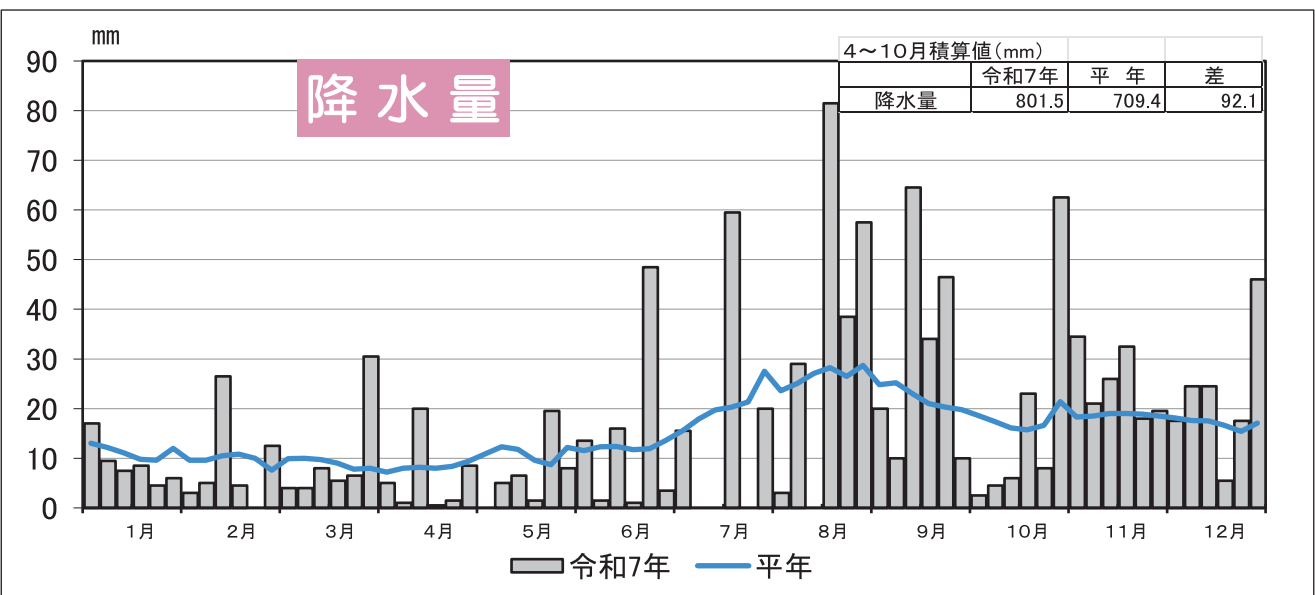
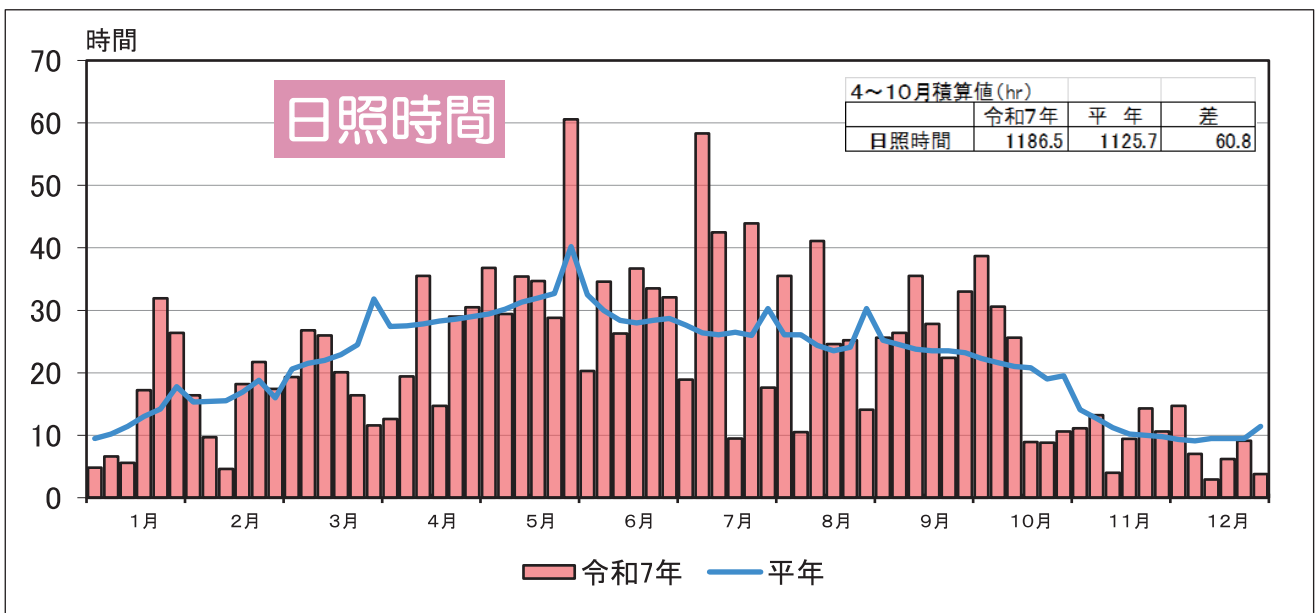
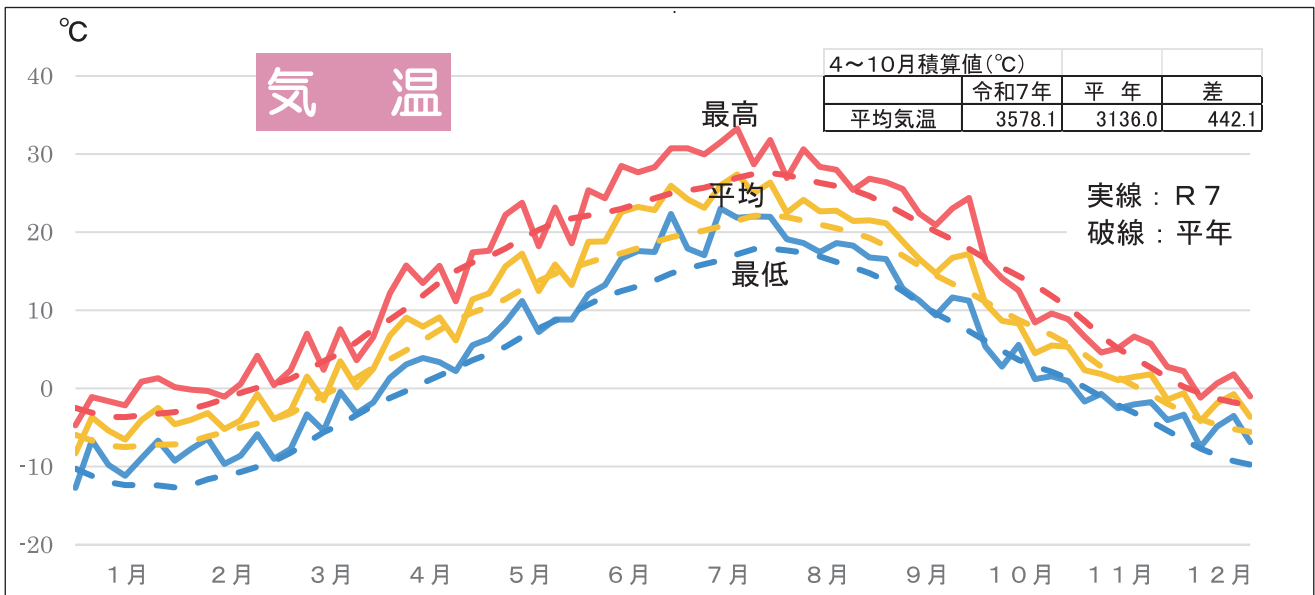
営農技術

資材種類	遮光ネット
対象	葉茎菜類全般（こまつな・しゅんぎく・チンゲンサイ・ほうれんそう・サニーレタス等）
地域	旭川市
目的	①抽苔等の高温・生育障害の抑制、茎葉黄変(在圃性、品質の低下)の防止 ②収穫作業者の暑熱対策として
方法	①②共通：ビニルハウスの上から覆うようにして設置。
商品名	①ら〜くらくスーパーホワイトS-30、ふあふあホワイトプラス30など ②多種あり
メーカー	日本ワイドクロス、ダイヤテックス など
規格等	①主に平織。遮光率30~35% 幅'7~8m×50m（約10~13万） ※サニーレタスは、網目状の寒冷紗のみ。UV遮光資材は発色不良の恐れがあり不可 ②黒色ラッセル織 幅6m×20~50m 遮光率が高い方がよい（50~85%）
使用時期	①こまつな・チンゲンサイ 収穫のおよそ15日程度前 リーフレタス・しゅんぎく 定植後 ②収穫時
効果・ 使用者の声	①全体的にヤケ・活着不良・チップバーン等の高温障害は減る傾向 留意点（旭川市農業センター職員、農業者より） ・ハウス内の土の乾きが悪くなり、遮光資材の有無でかん水の量・タイミングが異なる。管理しづらい。病害が出やすい場合がある（しゅんぎくの葉枯病など） ・遮光率は30%程度が望ましい。50%とすると生育の遅れ、品質の低下がみられる（チンゲンサイの葉が薄い、しゅんぎくの「細茎」「曲がり」など） ②ほ場内で箱詰めする場合など、暑熱対策として必須との声が多い。
写真	こまつなの例（は種 7月22日）  収穫10日前（8月13日）より設置（撮影日：8月16日）   収穫時（8月22~29日）、②の遮光ネットを併用（撮影日：8月22日）  

資材種類	送風機
対象	大玉トマト
地域	旭川市
目的	ハウス内の気温上昇防止 病害の抑制
方法	ハウス妻面上部にファンを設置
商品名	OutsidAir(アウトサイダー)
メーカー	(株) 誠和アグリカルチャ
規格等	送風機、フレキシブルダクト、吸気口(コンテナ)、穴あきダクト 仕様：本体送風能力3,520m ³ /h 定格消費電力240W/266W(50Hz/60Hz) 定格電圧100V 穴あきダクト長さ50m(200穴)80m(200穴)
使用時期	7月上旬～収穫終了まで
効果・ 使用者の声	導入目的は空気の循環による病害の抑制が主で、高温対策とはあまり考えていない。 高温期のハウス内温度は変わらなかったと感じている。 病害は例年と比較して抑制できたと感じている。
写真	

対策	栽植密度の見直し（疎植）による品質確保
対象	しゅんぎく（摘み取り）
地域	旭川市
目的	株張りの向上と、風通しの改善・ハウス内の湿度低下を図り、夏期高温期のチップバーンや葉枯病の発生を軽減する。 当該時期の産地は、道内では上川管内に限られるため、夏期は270円/束以上で高単価かつ需要も高い。安定出荷により所得向上にもつながる。
方法	①株間を慣行の15cm⇒30cmに広げる。 ②ベットの数を削減（例：間口5.4mハウス…慣行3～4ベット⇒2ベット） ③品種：JA旭川青果連が推奨した多収の地域品種「恵流」 ④生育中の遮光資材の併用は行っていない（収穫作業時のみ、作業者の暑熱対策のため設置） ⑤かん水はチューブによる埋め込みで、概ね7～10日に1回実施。 ⑥親茎を収穫後、腋芽を4本に仕立てる。腋芽本数が少ないと減収、多いと生育不揃い・過湿の要因となる。
対策時期	6月下旬～7月下旬定植のほ場
効果・ 使用者の声	昨年よりベット数を減らし、株間を広げたものの、出荷量としてはほとんど変わらない。（日出荷量で10～15箱） 対策を講じた農業者は、他と比べて株張りがよく、抽苔・チップバーン・葉枯病が少ない。色味・品質が圧倒的によい（関係機関の所感より）。
写真	<p>疎植（左・株間30cm×2ベット）と慣行（右・株間18cm×3ベット）の生育状況 （撮影日：いずれも7月18日）</p>

I 令和7年 旭川市における気象の経過



参考資料

令和7年気象経過

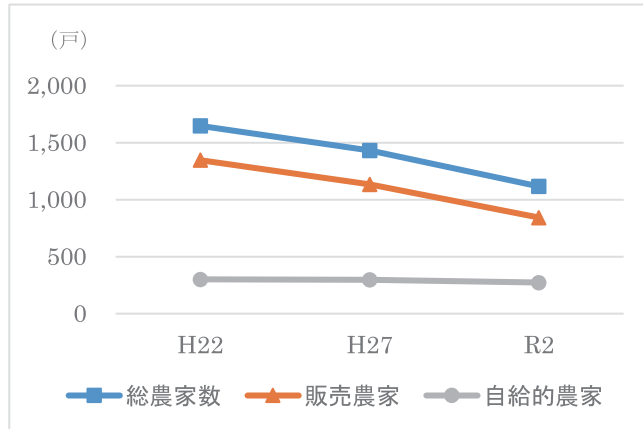
観測地：旭川（平年値：1991年～2020年）

月	半旬	令和7年					平年					平年差				
		気温			日照時間	降水量	気温			日照時間	降水量	気温			日照時間	降水量
		平均	最高	最低			平均	最高	最低			平均	最高	最低		
1月	1	-8.3	-4.7	-12.7	4.8	17.0	-5.9	-2.5	-10.3	9.5	13.0	-2.4	-2.2	-2.4	-4.7	4.0
	2	-3.7	-1.1	-6.6	6.6	9.5	-6.7	-3.1	-11.2	10.2	12.2	3.0	2.0	4.5	-3.6	-2.7
	3	-5.4	-1.6	-9.8	5.6	7.5	-7.3	-3.6	-12.0	11.4	11.1	1.9	2.0	2.2	-5.8	-3.6
	4	-6.6	-2.2	-11.2	17.2	8.5	-7.5	-3.7	-12.4	13.0	9.8	0.9	1.5	1.2	4.2	-1.3
	5	-4.0	0.9	-8.9	31.9	4.5	-7.3	-3.4	-12.4	14.2	9.6	3.3	4.3	3.5	17.7	-5.1
	6	-2.5	1.3	-6.7	26.4	6.0	-7.2	-3.2	-12.4	17.8	12.0	4.7	4.6	5.8	8.6	-6.0
2月	1	-4.6	0.2	-9.2	16.4	3.0	-7.2	-3.0	-12.7	15.3	9.6	2.6	3.2	3.4	1.1	-6.6
	2	-4.0	-0.1	-7.7	9.7	5.0	-6.8	-2.6	-12.4	15.4	9.6	2.8	2.5	4.7	-5.7	-4.6
	3	-3.1	-0.3	-6.4	4.6	26.5	-6.1	-2.0	-11.6	15.5	10.5	3.0	1.7	5.2	-10.9	16.0
	4	-5.2	-1.1	-9.6	18.2	4.5	-5.6	-1.3	-11.1	16.9	10.8	0.4	0.3	1.5	1.3	-6.3
	5	-4.1	0.6	-8.6	21.7	0.0	-5.0	-0.5	-10.7	18.8	10.0	1.0	1.1	2.1	2.9	-10.0
	6	-0.7	4.2	-5.8	17.4	12.5	-4.5	0.1	-10.0	16.0	7.6	3.7	4.1	4.2	1.4	4.9
3月	1	-3.9	0.4	-9.0	19.3	4.0	-4.0	0.5	-9.3	20.6	9.9	0.0	-0.1	0.3	-1.3	-5.9
	2	-2.9	2.3	-7.7	26.8	4.0	-3.2	1.2	-8.2	21.5	10.0	0.3	1.1	0.5	5.3	-6.0
	3	1.5	7.0	-3.3	26.0	8.0	-2.0	2.3	-6.9	22.0	9.7	3.5	4.7	3.6	4.0	-1.7
	4	-1.5	2.4	-5.4	20.1	5.5	-0.8	3.5	-5.6	22.9	9.0	-0.7	-1.1	0.2	-2.8	-3.5
	5	3.5	7.6	-0.4	16.4	6.5	0.2	4.5	-4.6	24.5	7.8	3.3	3.0	4.2	-8.1	-1.3
	6	0.2	3.6	-3.2	11.6	30.5	1.4	6.0	-3.4	31.8	8.0	-1.2	-2.4	0.2	-20.2	22.5
4月	1	2.5	6.6	-1.8	12.6	5.0	2.7	7.5	-2.2	27.4	7.2	-0.2	-1.0	0.4	-14.8	-2.2
	2	6.8	12.2	1.4	19.4	1.0	3.7	8.8	-1.2	27.5	8.0	3.0	3.3	2.6	-8.1	-7.0
	3	9.1	15.7	3.1	35.5	20.0	4.9	10.3	-0.3	27.8	8.2	4.2	5.5	3.4	7.7	11.8
	4	7.9	13.5	3.9	14.7	0.5	6.2	11.9	0.7	28.3	8.0	1.8	1.6	3.2	-13.6	-7.5
	5	9.1	15.7	3.4	29.0	1.5	7.5	13.6	1.6	28.6	8.4	1.7	2.1	1.7	0.4	-6.9
	6	6.2	11.1	2.2	30.5	8.5	8.7	15.0	2.6	29.0	9.4	-2.6	-3.9	-0.4	1.5	-0.9
5月	1	11.4	17.4	5.5	36.8	0.0	9.7	16.1	3.6	29.4	10.9	1.7	1.3	1.9	7.4	-10.9
	2	12.2	17.6	6.4	29.4	5.0	10.5	16.9	4.4	30.2	12.3	1.7	0.7	2.0	-0.8	-7.3
	3	15.6	22.2	8.4	35.4	6.5	11.4	17.9	5.3	31.3	11.8	4.2	4.3	3.1	4.1	-5.3
	4	17.3	23.8	11.2	34.7	1.5	12.7	19.2	6.6	32.0	9.6	4.6	4.6	4.6	2.7	-8.1
	5	12.5	18.2	7.2	28.8	19.5	13.8	20.3	7.7	32.7	8.7	-1.3	-2.1	-0.5	-3.9	10.8
	6	15.9	23.2	8.8	60.6	8.0	14.7	21.2	8.7	40.2	12.2	1.2	2.0	0.2	20.4	-4.2
6月	1	13.2	18.6	8.8	20.3	13.5	15.4	21.8	9.7	32.5	11.5	-2.2	-3.2	-0.8	-12.2	2.0
	2	18.8	25.4	12.0	34.6	1.5	16.1	22.1	10.8	30.0	12.3	2.7	3.2	1.3	4.6	-10.8
	3	18.8	24.4	13.3	26.3	16.0	16.8	22.5	11.8	28.4	12.4	2.0	1.8	1.5	-2.1	3.6
	4	22.6	28.5	16.6	36.7	1.0	17.3	23.0	12.5	28.0	11.7	5.3	5.5	4.2	8.7	-10.7
	5	23.3	27.7	17.6	33.5	48.5	18.0	23.7	13.1	28.4	11.9	5.3	4.0	4.5	5.1	36.6
	6	22.8	28.3	17.5	32.1	3.5	18.7	24.4	13.8	28.7	13.6	4.1	4.0	3.6	3.4	-10.1
7月	1	26.0	30.7	22.4	18.9	15.5	19.4	25.0	14.7	27.6	15.5	6.6	5.8	7.6	-8.7	0.0
	2	24.2	30.8	17.9	58.3	0.0	19.8	25.3	15.4	26.4	17.9	4.4	5.4	2.5	31.9	-17.9
	3	23.1	30.0	17.1	42.5	0.0	20.2	25.7	15.9	26.1	19.7	2.9	4.3	1.2	16.4	-19.7
	4	26.0	31.5	23.0	9.5	59.5	20.7	26.3	16.4	26.5	20.3	5.2	5.3	6.6	-17.0	39.2
	5	27.4	33.3	21.9	43.9	0.0	21.5	27.0	17.2	26.0	21.3	5.9	6.3	4.7	17.9	-21.3
	6	25.0	28.7	22.0	17.6	20.0	22.1	27.5	17.8	30.3	27.5	2.9	1.2	4.2	-12.7	-7.5
8月	1	26.4	31.8	22.0	35.5	3.0	22.2	27.6	17.9	26.1	23.6	4.2	4.2	4.1	9.4	-20.6
	2	22.5	26.9	19.1	10.5	29.0	21.9	27.3	17.7	26.1	25.1	0.6	-0.4	1.4	-15.6	3.9
	3	24.2	30.6	18.6	41.1	0.0	21.5	26.8	17.4	24.4	27.1	2.7	3.8	1.2	16.7	-27.1
	4	22.7	28.4	17.5	24.6	81.5	21.0	26.3	16.9	23.5	28.2	1.7	2.1	0.6	1.1	53.3
	5	22.7	28.0	18.6	25.2	38.5	20.5	25.9	16.2	24.1	26.5	2.2	2.1	2.4	1.1	12.0
	6	21.4	25.4	18.3	14.1	57.5	20.0	25.4	15.5	30.3	28.7	1.5	0.0	2.8	-16.2	28.8
9月	1	21.5	26.8	16.8	25.6	20.0	19.3	24.6	14.8	25.2	24.8	2.2	2.2	2.0	0.4	-4.8
	2	21.1	26.4	16.6	26.4	10.0	18.3	23.6	13.8	24.5	25.2	2.9	2.9	2.8	1.9	-15.2
	3	18.8	25.6	12.8	35.5	64.5	17.0	22.4	12.5	23.8	23.0	1.8	3.1	0.3	11.7	41.5
	4	16.6	22.4	11.3	27.8	34.0	15.7	21.2	11.0	23.5	21.0	0.9	1.1	0.3	4.3	13.0
	5	14.8	20.9	9.3	22.4	46.5	14.5	20.1	9.6	23.5	20.3	0.3	0.8	-0.3	-1.1	26.2
	6	16.7	23.1	11.6	33.0	10.0	13.4	19.1	8.5	23.2	19.8	3.3	4.0	3.1	9.8	-9.8
10月	1	17.2	24.4	11.2	38.7	2.5	12.3	17.9	7.4	22.3	18.6	4.9	6.5	3.9	16.4	-16.1
	2	10.9	16.4	5.4	30.6	4.5	11.1	16.7	6.1	21.6	17.4	-0.2	-0.3	-0.7	9.0	-12.9
	3	8.6	14.1	2.8	25.6	6.0	9.9	15.5	4.9	21.0	16.1	-1.3	-1.4	-2.1	4.6	-10.1
	4	8.3	12.5	5.6	8.9	23.0	8.8	14.4	3.7	20.8	15.7	-0.5	-1.8	1.9	-11.9	7.3
	5	4.5	8.5	1.2	8.8	8.0	7.8	13.2	2.8	19.0	16.6	-3.3	-4.8	-1.6	-10.2	-8.6
	6	5.5	9.6	1.6	10.6	62.5	6.9	11.9	2.1	19.5	21.4	-1.4	-2.3	-0.6	-8.9	41.1
11月	1	5.3	8.9	0.9	11.1	34.5	5.7	10.4	1.3	14.1	18.3	-0.4	-1.5	-0.3	-3.0	16.2
	2	2.4	6.7	-1.7	13.2	21.0	4.3	8.7	0.2	12.7	18.5	-2.0	-2.0	-1.8	0.5	2.5
	3	1.8	4.6	-0.7	4.0	26.0	2.8	6.7	-1.0	11.2	19.0	-1.0	-2.1	0.3	-7.2	7.0
	4	1.1	5.1	-2.5	9.4	32.5	1.4	5.1	-2.1	10.2	19.0	-0.4	0.0	-0.4	-0.8	13.5
	5	1.5	6.7	-2.0	14.3	18.0	0.3	3.9	-3.1	10.0	18.9	1.2	2.7	1.1	4.3	-0.9
	6	1.8	5.7	-1.8	10.6	19.5	-0.8	2.7	-4.2	9.8	18.5	2.6	3.1	2.4	0.8	1.0
12月	1	-1.4	2.8	-4.1	14.7	17.5	-1.9	1.4	-5.4	9.3	18.1	0.5	1.4	1.3	5.4	-0.6
	2	-0.6	2.2	-3.4	7.0	24.5	-3.0	0.2	-6.6	9.1	17.6	2.4	2.0	3.2	-2.1	6.9
	3	-4.2	-1.2	-7.5	2.9	24.5	-3.9	-0.6	-7.7	9.5	17.5	-0.2	-0.6	0.2	-6.6	7.0
	4	-1.9	0.7	-4.9	6.2	5.5	-4.6	-1.3	-8.6	9.5	16.6	2.8	1.9	3.7	-3.3	-11.1
	5	-0.7	1.8	-3.5	9.1	17.5	-5.2	-1.8	-9.3	9.5	15.4	4.5	3.6	5.8	-0.4	2.1
	6	-3.6	-1.0	-6.9	3.8	46.0	-5.6	-2.2	-9.7	11.4	17.1	1.9	1.1	2.9	-7.6	28.9

参考資料

II 統計資料

1 農家数の推移



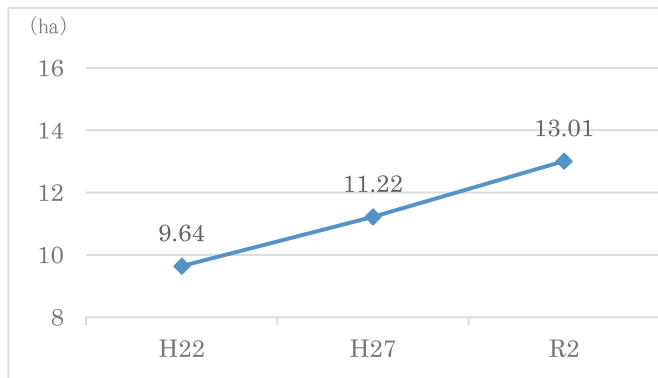
(単位：戸)

各年2月1日現在

年	販売農家	自給的農家	総農家数
平成22年(2010)	1,346	301	1,647
平成27年(2015)	1,133	298	1,431
令和2年(2020)	843	273	1,116

資料：農林業センサス (H27、R2)、世界農林業センサス (H22)

2 1 農業経営体当たりの経営耕地面積の推移



(単位：ha, 経営体)

各年2月1日現在

年	総耕地面積	経営耕地のある農業経営体数	1 農業経営体当たりの経営耕地面積
平成22年(2010)	13,320	1,382	9.64
平成27年(2015)	13,201	1,177	11.22
令和2年(2020)	11,596	891	13.01

資料：農林業センサス (H27、R2)、世界農林業センサス (H22)

3 主要農作物作付面積・生産量及び生産額

作物	令和4年			令和5年			令和6年			
	作付面積 (ha)	生産量 (t)	生産額 (千円)	作付面積 (ha)	生産量 (t)	生産額 (千円)	作付面積 (ha)	生産量 (t)	生産額 (千円)	
水稲	5,680	35,500	7,650,250	5,770	35,900	7,276,930	5,990	37,400	7,685,700	
畑作物	小麦	1,100	3,760	155,664	1,140	3,490	210,447	1,070	3,410	198,803
	大豆	773	1,720	270,728	757	1,440	216,576	784	1,730	264,863
	ばれいしょ	125	2,713	135,415	118	2,971	114,669	109	2,223	114,741
	てん菜	175	13,100	144,100	129	8,650	95,150	151	11,900	130,900
	そば	1,290	889	223,139	1,400	676	149,193	1,430	1,180	253,346
計	3,463	22,182	929,046	3,544	17,227	786,035	3,544	20,443	962,653	
飼料作物	57	1,297	11,932	57	1,501	16,850	84	2,791	37,057	
牧草	1,655	35,064	241,941	1,659	37,070	255,783	1,637	41,271	224,102	

作物		令和4年			令和5年			令和6年			
		作付面積	生産量	生産額	作付面積	生産量	生産額	作付面積	生産量	生産額	
		(a)	(t)	(千円)	(a)	(t)	(千円)	(a)	(t)	(千円)	
野菜	果菜類	いちご	26	4	6,554	16	4	5,397	20	3	5,154
		かぼちゃ	701	120	9,369	504	93	9,614	498	112	10,117
		きゅうり	194	186	48,929	141	242	76,618	169	226	81,315
		ししとう	72	31	39,564	82	27	41,786	57	22	41,546
		なんばん	76	29	30,130	79	26	29,344	80	29	33,369
		トマト	171	192	70,674	119	164	61,513	120	168	66,950
		中玉トマト	20	6	2,232	20	6	1,919	10	6	2,067
		ミニトマト	307	146	111,482	307	137	106,940	212	126	108,365
		ピーマン	321	180	84,797	288	151	91,398	154	172	101,069
		メロン	484	86	43,020	480	86	44,635	573	76	44,458
		なす	7	3	515	0	5	1,429	0	23	5,812
	小計		2,379	982	447,266	2,036	941	470,593	1,893	963	500,222
	葉茎菜類	グリーンアスパラ	2,121	62	76,179	1,860	50	59,846	1,862	27	36,151
		キャベツ	0	4	389	38	2	140	0	0	0
		こまつな	2,390	299	128,366	2,557	276	132,981	2,365	271	134,399
		サラダナ	191	16	12,376	109	16	12,324	109	14	11,651
		しゅんぎく(株張り)	69	7	7,235	80	6	8,258	61	6	7,334
		しゅんぎく(摘み取り)	342	45	48,179	313	28	36,893	199	27	39,188
		セルリー	27	12	2,683	33	6	1,375	11	0	0
		ターサイ	200	46	14,903	139	28	10,459	87	31	11,488
チンゲンサイ		953	261	111,119	868	247	110,602	873	238	114,298	
軟白長ねぎ		85	56	33,189	77	55	38,324	72	46	34,715	
青(小)ねぎ		440	48	53,428	303	39	46,822	277	53	59,864	
その他ねぎ		78	7	4,746	88	7	4,736	24	7	5,530	
玉ねぎ		189	96	7,840	147	55	3,652	110	61	6,092	
パセリ		181	35	61,943	211	35	74,159	234	31	88,759	
ほうれんそう		1,335	64	52,776	1,197	60	48,862	714	52	44,177	
結球レタス		175	78	15,152	188	74	13,597	181	60	12,371	
サニーレタス		264	72	30,665	272	68	35,050	316	67	33,679	
リーフレタス		274	73	28,194	254	67	31,362	289	62	30,516	
みずな		277	26	12,962	122	20	10,544	42	20	11,321	
ブロッコリー	625	75	15,987	335	42	8,037	126	61	12,675		
小計		10,216	1,382	718,311	9,191	1,181	688,023	7,952	1,134	694,208	

参考資料

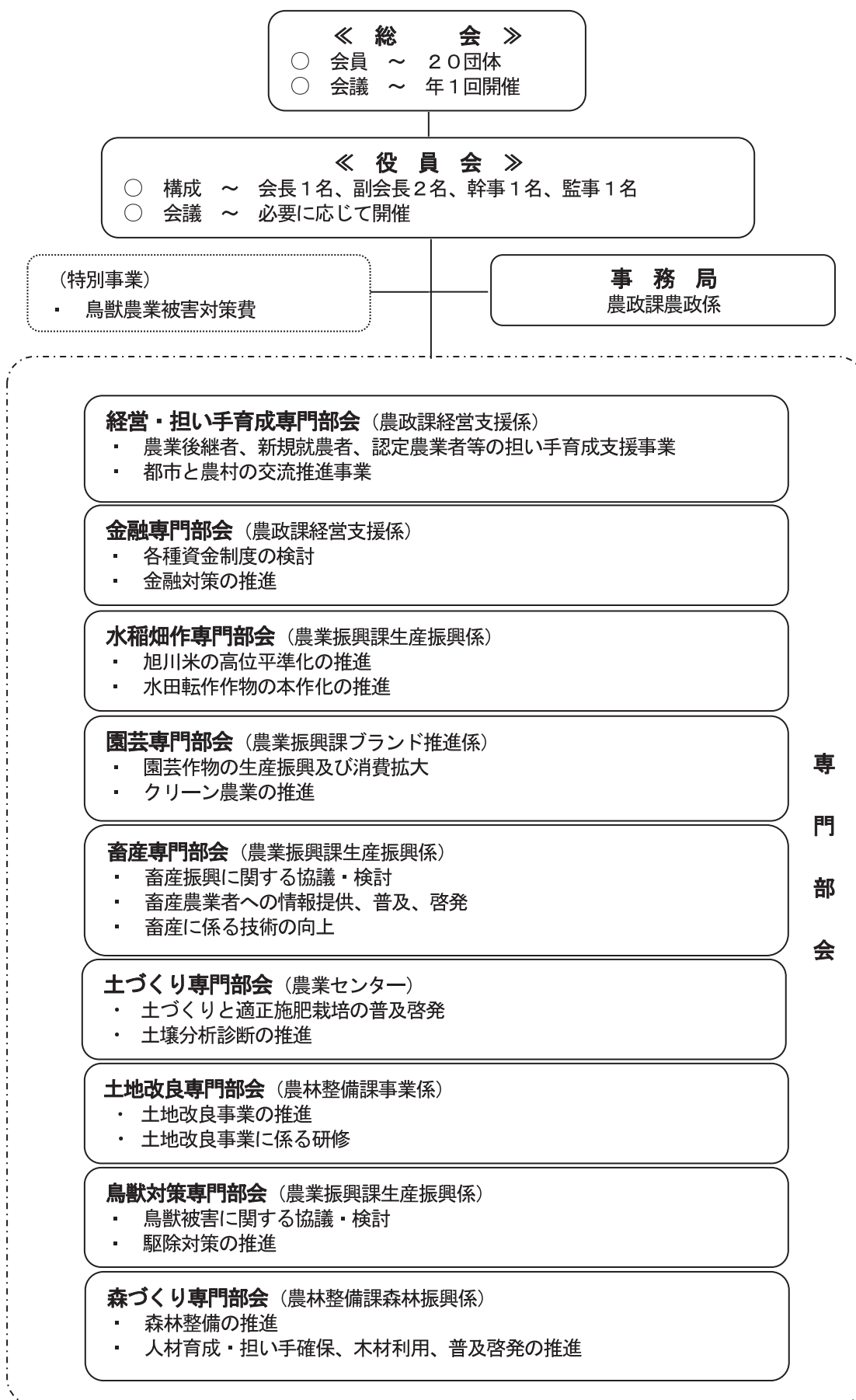
作物			令和4年			令和5年			令和6年			
			作付面積 (a)	生産量 (t)	生産額 (千円)	作付面積 (a)	生産量 (t)	生産額 (千円)	作付面積 (a)	生産量 (t)	生産額 (千円)	
野	根菜類	かぶ	35	12	3,639	40	10	2,638	24	19	2,657	
		ばれいしょ (生食用)	184	39	3,037	1	35	2,388	0	5	477	
		ばれいしょ (加工用)	12,300	2,674	132,378	11,830	2,935	112,281	10,930	2,218	114,264	
		さつまいも	376	56	7,836	1,168	108	13,759	1,237	138	18,754	
		ラディッシュ	49	21	14,075	35	21	13,825	41	22	14,434	
	小計		12,944	2,801	160,965	13,074	3,109	144,891	12,232	2,402	150,586	
	菜	軟莢類	さやいんげん	85	5	7,204	61	3	5,694	36	4	7,017
			さやえんどう	38	1	4,448	13	1	5,912	23	2	6,486
			えだまめ	80	6	3,087	33	4	1,899	15	3	2,121
			スイートコーン	4,971	972	38,156	5,200	324	19,009	6,850	1,635	35,174
小計		5,174	984	52,895	5,307	332	32,514	6,924	1,644	50,798		
他	果菜～軟莢	22	27	41,472	570	33	29,656	1,150	68	46,071		
小計		22	27	41,472	570	33	29,656	1,150	68	46,071		
野菜合計			30,735	6,175	1,420,909	30,178	5,596	1,365,677	30,151	6,211	1,441,885	
花き	切花		867	-	87,316	790	-	86,796	758	-	86,839	
	花壇苗		4	-	511	4	-	445	0	-	15	
	花き合計		871	-	87,827	794	-	87,241	758	-	86,854	

作物		作付面積 (ha)	生産量 (t)	生産額 (千円)	作付面積 (ha)	生産量 (t)	生産額 (千円)	作付面積 (ha)	生産量 (t)	生産額 (千円)
果樹	りんご	19.9	271.4	49,313	19.9	239.2	46,579	19.9	275.6	56,858
	おうとう	23.6	25.3	42,440	23.6	43.5	83,061	20.1	29.8	140,037
	なし	3.7	27.0	3,040	3.4	13.8	1,942	3.4	18.0	2,807
	その他	7.9	22.4	7,063	7.9	22.3	7,269	6.9	22.7	7,812
	果樹合計		55.1	346.1	101,855	54.8	318.8	138,851	50.3	346.1

畜産		生産量	生産額 (千円)	生産量	生産額 (千円)	生産量	生産額 (千円)	
畜	子畜生産	乳牛(頭)	231	20,319	229	18,089	229	18,298
		肉牛(頭)	536	130,989	501	93,104	502	85,647
		初妊(ホル)	21	5,540	20	3,542	21	5,449
		廃用牛(頭)	-	-	-	-	110	22,513
生乳(t)		2,939	277,667	2,839	293,759	2,896.6	321,668	
産	枝肉生産	乳牛(t)	278.0	272,238	285.0	238,509	254.4	256,689
		肉牛(t)	405.0	611,966	417.7	571,209	340.0	502,547
		豚(t)	3,548.5	2,042,485	3,312.8	2,024,464	3,144.5	2,054,912
		鶏(羽)	81,680	-	81,507	-	59,565	-
		鶏卵(t)	2,200.2	539,049	2,195.6	715,765	1,604.5	364,221
畜産合計		-	3,900,253	-	3,958,441	-	3,631,944	

※廃用牛は、R6から統計に追加

機構図（令和7年度）



構成団体一覧（令和7年度）

	機関・団体名	住所	電話番号
推進 機 関	旭川市（農政部）	旭川市7条通10丁目	25-7417
	旭川市農業委員会	旭川市7条通10丁目	25-6729
	あさひかわ農業協同組合	旭川市豊岡4条1丁目	31-0111
	東旭川農業協同組合	旭川市東旭川南1条5丁目	36-2111
	たいせつ農業協同組合	旭川市東鷹栖1条3丁目	57-2311
	東神楽農業協同組合	上川郡東神楽町北1条東1丁目	83-2321
	旭川土地改良区	旭川市西神楽1線18号390-2	75-5511
	永山土地改良区	旭川市永山2条19丁目3番11号	48-2352
	東和土地改良区	旭川市東旭川町旭正312	32-2241
	大雪土地改良区	旭川市東鷹栖4条5丁目639-130	57-2919
	北海道農業共済組合道央上川センター	旭川市東旭川町下兵村517番地	36-2162
	旭川市森林組合	旭川市工業団地3条1丁目2番15号	36-4268
北海道猟友会旭川支部	旭川市豊岡8条5丁目1-17-301	33-5105	
関 係 機 関	北海道開発局旭川開発建設部	旭川市宮前1条3丁目3番15号	32-1111
	北海道農政事務所 旭川地域拠点	旭川市宮前1条3丁目3番15号	30-9300
	北海道立総合研究機構農業研究本部 上川農業試験場	上川郡比布町南1線5号	85-2200
	上川農業改良普及センター	上川郡当麻町宇園別2区748番地	84-2017
	北海道上川家畜保健衛生所	旭川市東鷹栖4線15号	57-2232
	北海道旭川農業高等学校	旭川市永山町14丁目	48-2887
	旭川市内農民連盟連絡協議会	旭川市東鷹栖2線14号	57-3173

チャレンジ農業2026

編集 旭川市営農改善推進協議会
発行 令和8年3月



旭川市7条通10丁目 旭川市第二庁舎5階

TEL (0166) 25-7417

FAX (0166) 26-8624